

代表質問・一般質問の要旨 (令和7年9月定例会)

【代表質問】

	議員名	所属会派	質問形式	登壇予定日
1	川口 孝文	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	9月12日 (金)
2	野瀬 貴則	新政クラブ議員団	一問一答	
3	伊田 悦子	日本共産党議員団	3 分割	
4	高橋 秀策	超党・市民ファースト議員団	一括	
5	上羽 和幸	公明党議員団	一問一答	

【一般質問】

	議員名	所属会派	質問形式	登壇予定日
1	小西 洋一	日本共産党議員団	一問一答	9月16日 (火)
2	西村 正之	超党・市民ファースト議員団	一括	
3	松田 弘幸	公明党議員団	一括	
4	今西 克己	新政クラブ議員団	一問一答	
5	谷川 眞司	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
6	小杉 悦子	日本共産党議員団	一問一答	
7	廣瀬 昇	超党・市民ファースト議員団	一問一答	
8	杉島 久敏	公明党議員団	一問一答	
9	眞下 弘明	新政クラブ議員団	一問一答	
10	水嶋 一明	自民党鶴政クラブ議員団	一括	
11	福本 明日香	超党・市民ファースト議員団	一問一答	9月17日 (水)
12	小谷 繁雄	公明党議員団	一問一答	
13	眞下 隆史	新政クラブ議員団	一問一答	
14	南 正弘	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
15	仲井 玲子	超党・市民ファースト議員団	2 分割	
16	田畑 篤子	新政クラブ議員団	一問一答	
17	上野 修身	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	
18	山本 治兵衛	新政クラブ議員団	一問一答	
19	尾関 善之	自民党鶴政クラブ議員団	一問一答	

【代表質問】

1 川口 孝文 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 舞鶴市の広報・広聴について

広報は課題解決のために、双方向コミュニケーションによって望ましい関係を構築・維持する活動である。広聴は施策に対する評価、意見などを幅広く聞き取る活動を指し、市民のチェック機能も有しており、市民と協働した市政を推進する上で必要不可欠なものである。そこで、市長に「広報・広聴」に対する考えを問う。



2 舞鶴市市民憲章の制定について

市民憲章は、市が掲げる理念や方向性を示し、市民一人一人がまちづくりに主体的に関わるための行動規範や目標となるものであり、わが国の都市の9割近くに制定されている。行政、市民、企業等がそれぞれの役割を果たし、本市を発展させていくツールとして有用であると考えます。そこで、市長に市民憲章制定に関する考えを問う。

2 野瀬 貴則 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 令和6年度財政を経た今後の市政運営について

市長が本格的に1から編成された令和6年度の決算が提出された。計画どおり執行されたのか。予算から決算に至る変化についてと、これからの財政運営について市の考えを伺う。また、本市の財政指標を分析し、目指すべき目標を定める必要性と、年々減少する市税収入を改善するために、稼ぐ力をどう獲得していくのかを問う。



2 西市街地浸水対策事業について

静浜ポンプ場の工事中止により西市街地浸水対策事業は大きく遅れている。第三者委員会である検証会議を経て、原因の特定と対策も発表された。改めて今回の原因と対策、再開について市の考えを伺う。そして、今定例会に上程された損害賠償についての議案は、議会が審査できるだけの資料が提出されていない。理由について伺う。

3 庁内ガバナンスについて

市の不適切な事務処理や不祥事が続発している。それぞれの別の原因だとしても市民に多くの迷惑がかかり、余分な支出を出している。人材確保や人事異動など根本的な原因とともに庁内ガバナンスに課題があるのではないかと考える。市の内部体制についてどう取り組んでいるのかを確認し、必要な対策について伺う。

4 市民要望に対する市の姿勢について

市には市民から様々な要望が寄せられ、それに対して真摯に対応する責務がある。しかし、各地域の自治会長が集まり構成する区長会等が提出した地域の要望書に対して、今年から文書回答をしないとの通達が出た。住民自治を担い、市とこれまで一緒にまちづくりを行ってきた自治組織に対して真摯な対応ではなく、市の姿勢を問う。

5 小中学校の給食費無償化について

中学校の給食費無償化が実施され1年が経過した。成果目標が設定されておらず費用対効果の検証は困難であるが、これまで実施した効果と市の評価はどうか。来年度から国による給食費無償化実施後には、現在の財源は次なる子育て施策にどう活用していくのか市の考えを伺う。

6 地域医療体制の再編について

現在議論が進められている地域医療体制の再編について、各病院長と市で構成する検討会議で具体的なプランが提示され、方向性が少しずつ見えつつある。ここから先は、総論賛成から各論反対に移る段階に入り、プラン決定から5年程度という期間で本当に実施可能なのか。市の責任と覚悟について伺う。

7 学校規模の適正化について

本市でいよいよ学校の統廃合への舵切りが学校規模適正化ビジョン（案）によって明確に示された。学校のあるべき理想の姿と現実のそこに住む住民の思いとの間で理解を得るには、市が明確な姿勢を示さなければならない。これからの学校再編をどう進めていくのか、既存の施策や方針との整合性と併せて伺う。

3 伊田 悦子 議員（日本共産党議員団） [3分割]

1 市民生活を支える物価高騰対策について

物価高騰が続く中、市民からは暮らしの悲鳴が聞こえてくる。国の物価高騰対策が無策の中、財政調整積立金を取り崩しての対策を求める。また、物価高騰対策として一番効果があると考えられる消費税の緊急減税を国に要請する必要がある。それらの見解を問う。



2 子どもたちの学びの保障の上に立った学校再編について

本市の不登校の現状は深刻である。議論されている学校再編ではどのような位置づけになっているのか。また、小規模特認校を選択肢として議論の必要があるが、議論の状況は。いずれにせよ、学校再編については、統合ありきではなく、地域住民の声も十分聞き、小規模特認校も含め徹底した議論を尽くし、市民合意の学校再編を求めるが、市の見解を問う。

3 戦後80年・被爆80年にあたり本市の平和行政について

本市は平和首長会議に加盟しているが、その意義や目的からすれば、今の国の大軍拡路線にものを言う必要があり、核兵器禁止条約の署名・批准を国に求めるべきと考える。自衛隊の基地強化は、本市の平和行政・まちづくりに大きな影響を及ぼすと考ええる。その認識を問う。

4 高橋 秀策 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

1 市長の政治姿勢について

日々是清新の気持ちで市政の推進に努めてまいる決意であります、と所信表明をされてから早2年半が経過した。その間、学校給食費無償化、持続可能な医療を考える会、子育て医療費拡充、学校トイレの洋式化促進、アイリスオーヤマ企業誘致など実績を挙げられたが、今後の政策について問う。



2 地域医療について

再編統合となると市民にとっても大きな問題で、市民の理解も非常に大切である。市民にはどのように理解を深めていくのか。例えば、医療シンポジウムなどの開催や住民との意見交換会の開催などが考えられるが、その考えを問う。また、医療機能最適化検討会議について、今後の進め方についても問う。

3 北陸新幹線小浜・京都ルートについて

参議院議員選挙を受けての議論になっているが、今一度国土の均衡ある発展、地方創生の観点からも京都府北部ルートを望むものである。舞鶴市議会では「北陸新幹線小浜・京都ルートを見直し、京都府北部ルートを再考することを求める決議」を可決した。このような状況の中、鴨田市長の新幹線整備に対しての思いを問う。

4 西市街地の浸水対策について

①静浜ポンプ場整備に関する調査等特別委員会などで、積算設計単価非公表とされているが、その理由を問う。また、弁護士に相談などに相談されたのか問う。

②西市街地の浸水対策事業については、鋭意進めていただいているが、今後の進め方について問う。

5 市職員による議員へのハラスメントと市の不適切な対応について

議長から市長に対して、市職員によって、市議会議員に対してハラスメントがあり、市の不適切な対応があったとして、申し入れがなされた。市として、どういう点で事実関係に異議や反論があるのか、また、現時点で、この件についてどのように対応しようとしているのか、市の考えを問う。

6 公共的な施設のトイレの在り方について

公共施設、駅、商業施設、イベント会場など、不特定多数の方が使用するトイレにおいては、女性用のトイレに行列ができるという光景が良くみられる。市が設置する公共施設の場合、トイレの個室の男性用、女性用のトイレの個室の数はどのような基準に基づいて整備しているか問う。

5 上羽 和幸 議員（公明党議員団）〔一問一答〕

1 今後の財政見通しと物価高騰対策について

現在は健全な財政運営になっている。今後の歳入の見込みと事業実施も踏まえた歳出の見込みを聞く。歳入が好調な理由に、物価高騰による税収の増加があり、市民生活への影響も厳しいが、実態をどのように把握しているか。国の物価高対策の補助金を活用するのは当然として、好調な財源を市民に還元いただきたいがどうか。



2 インフラ整備とまちづくりについて

重点インフラ整備の進捗と完成時期について、国府への要望活動の成果について、次の重点要望方針と計画について、上下水道管老朽化対策について、橋梁、トンネルの老朽化状況と道路の包括的民間委託について聞く。街路樹は近年見直され、国は推進している。一方で、管理や近隣住民の負担があるが、街路樹に対する見解を聞く。

3 人口減少対策の柱と次の総合計画について

舞鶴市の人口減少は加速しており、減少率は2%近い。総務省によると、令和6年度の日本の減少率は0.74%で、舞鶴の減少率は高い状況にある。この数値は危機的な状況だが、対策について聞く。来期の総合計画を検討しているが、次の人口減少対策の柱になる施策は何だと考えているのか見解を聞く。

【一般質問】

1 小西 洋一 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

- 1 新たな気候変動に対応した「高野川総合治水対策事業」について
「今まで経験したことのない豪雨」「24時間で平年の1か月分の2倍を超える雨量」などが繰り返されている。令和3年11月に国土交通省から「雨水管理総合計画ガイドライン（案）」も出されていることから、「高野川総合治水対策事業」の整備目標である「平成16年台風23号と同程度（概ね10年に1回程度）」という基準を、近年の新しい気候変動を考慮して見直す必要があるのではないかと。また、現場と計画が合っていないという理由で契約解除した静溪ポンプ場を含む今後の事業の再開に向けた工程を問う。
- 2 G I G Aスクール構想について
2019年から始まったG I G Aスクール構想。文科省と経産省が、およそ3000億円の国費をかけて、一人一台のタブレット端末を配布して取組が開始されてきた。
2020年から流行した新型コロナ対策もあり、急速に事業展開されてきたが、ここに来て学力や健康など児童、生徒に様々な問題点が指摘されている。I C T教育先進国でも、日本でも事業の見直しが始まっているが、I C T教育の成果と課題、問題点について、本市の状況を聞く。
- 3 本市消防体制の充実強化について
近年、世界でも、日本でも大規模な山火事が相次いでいる。本年2月に岩手県大船渡市で発生した大規模な山火事は、鎮化までに41日間もかかり、大きな被害をもたらした。その後も、各地で小・中規模の山火事が相次いだ。舞鶴湾を背景に、三方を山林に囲まれている本市も他人事ではなく、本市の消防体制の充実強化が求められている。来年2026年4月竣工で、西町地内の元国有地に西消防署の新築・移転事業が開始されているが、機関職員の定数160名への増員や、大規模な山火事への即応体制、関係機関・近隣市町との連携体制について問う。



2 西村 正之 議員（超党・市民ファースト議員団） [一括]

- ・ ハラスメントについて
「日本一働きやすい市役所」を目指す本市にとって、カスタマーハラスメント対策は重要なことと承知している。
ガイドライン運用から半年が過ぎているが、働きやすい環境になっているのか、より良い行政サービスにつながっているのかを問う。また、課題などを問う。



3 松田 弘幸 議員（公明党議員団） [一括]

- 1 一次産業の活性化の取組について
令和7年度においては、様々なキャンペーンや舞鶴の農水産物普及事業、PRに力を入れていただいているが、現在の状況や今後の予定について尋ねる。また、メディアに取り上げていただくことが重要であるので、その対策等を尋ねる。
- 2 一次産業を活用した観光振興の取組について
一次産業を活用した観光振興、舞鶴の発展には、商工会議所や観光協会、京都府漁協、農協、生産者（農業者、漁業者）、各商店組合、飲食店、舞鶴を元気にしていこうとする団体や行政等多くの団体との連携が必要と考えるので尋ねる。



4 今西 克己 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 有害鳥獣対策について

本市は、鳥獣による農林水産業の被害防止に取り組んでいただいているが、令和6年度においても、イノシシ、ニホンジカ等による農作物の被害が令和5年度と比較して被害金額、被害面積も倍増している。また、ツキノワグマについても、市内においての目撃情報が例年100件以上寄せられている。今般、鳥獣保護管理法が改正され、市町村独自の判断で猟銃の使用が可能になった。このような現状を踏まえ、有害鳥獣対策を問う。



2 市民要望に対する市の姿勢について

市内の各地域では、地域福祉の向上と、安心・安全な日常生活を営むために、自治会、区長連合会、協議会等の組織・団体が毎年舞鶴市に対して要望書の提出を行っている。提出したその要望書の要望事項に対しては、市において調査等が行われ、市の判断等を書面により要望者に回答をいただき、適切に対応していただいていたが、今般、書面回答は取り止めるとの通知があった。なぜ急にやりやめになったのか、その理由を問う。

5 谷川 眞司 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 行政ポイントについて

本市の人口減少と高齢化の進行に対応する方策として、行政ポイント制度導入の可能性を問うものである。行政ポイント制度は、市民が健康増進や地域活動に参加するとポイントが付与され、地元商店街などで利用できる仕組みで、福井県坂井市や福岡県柳川市では、既に導入され、地域経済活性化や高齢者見守り、キャッシュレス推進に成果を上げている。舞鶴市でも同様の制度導入や商店街との役割分担・連携体制、将来ビジョンについて市の見解を問う。



2 外国人へのごみ分別の周知について

本市における外国人住民の増加を踏まえ、ごみ分別ルール周知方法について質問するものである。外国人は、技能実習生に限らず、留学や就労など多様な在留資格で滞在し、永住権取得者も増えている。文化や生活習慣の違いから、日本での分別ルールを理解するには丁寧な説明が必要である。現在、多言語パンフレットは用意されているが、市役所での転入時の説明方法や、集合住宅単位での回収・袋への氏名記入など、具体的方策について市の見解を問う。

3 法改正に伴う緊急銃猟について

全国的にクマ被害が多発し、死傷者は本年4～7月で55人に達し過去最多水準となっている。本市でも目撃例が相次ぎ、市街地出没が現実的な脅威となっている。従来「絶滅寸前種」とされた府内のクマは、近年増加傾向にあり、対策が急務である。9月施行の改正鳥獣保護管理法では、市街地でも条件付きで猟銃使用が可能となり、市町村が補償責任を負う仕組みが導入された。市には猟友会との即応体制整備、情報伝達手段の確立、補償財源や独自マニュアルの策定が求められているが、対策を問う。

6 小杉 悦子 議員（日本共産党議員団） [一問一答]

1 農業の振興について

「令和のコメ米騒動」は自公政権の農業政策の誤り、その反省なしにコメの増産方針を示している。従来の政策では、農家もコメの安定供給も守ることができないと考えることから、本市のコメ生産農家への支援策の方向性などを問う。また、今年の渇水で、コメの収穫に影響があると心配される。当面の渇水対策や長期的な対策について問う。



2 国民健康保険事業とマイナ保険証などについて

他の健康保険制度に比べて国民健康は高い保険料となっている。市は今年から3年間、保険料の引き上げを計画している。物価高など市民生活が苦しい中でさらなる保険料の値上げは、市民の健康や命を守ることができないことから、引き下げを求めるもの。また、政府の強引なマイナ保険証一本化、OTC類似薬の公的保険外しについても、市の認識を問う。

3 地域医療の再編について

市域の公的4病院の再編統合は、本年3月に5つの再編パターンが示されたが、その後の動きが具体的に見えてこないことから、今後の具体的な計画等を問う。今年度すでに許可病床を50床削減した病院もある。議論が長引けば、厳しい医療環境の中で病院経営がさらに悪化し、医療従事者には不安が大きく広がる。今後の見通しを示すよう求め、病床数は新型感染症にも対応できるゆとりある病床数の確保を求め、市の認識を問う。

7 廣瀬 昇 議員（超党・市民ファースト議員団） [一問一答]

1 本市の地域活性について

若者の流出と人口減少を最重要課題とする市に対し、外に出た若者が戻ってくる「人材還流」の視点が必要と提案し、見解を問う。

島根県の隠岐島前モデルを例に、官民連携による教育の魅力化や関係人口の創出、市内教育機関の連携強化、行政課題を活用した探究学習への協力を求め、見解を問う。



2 持続可能な地域医療体制と人材育成について

公的病院の再編・統合に加え、医師・看護師の人材確保という「ソフト」戦略の重要性を強調する。

成功事例であるナースインターンシップをさらに発展させ、看護師向けの支援パッケージ構築や、働きがいのある職場環境づくり、そして、人材育成拠点化という最終ビジョンを示すよう提案し、見解を問う。

8 杉島 久敏 議員（公明党議員団） [一問一答]

1 太陽光パネル設置と廃棄問題について

今後も市内公共施設の太陽光パネルの設置については、当初計画に従い進めて行かれるのか。また、太陽光パネル廃棄に関しては産業廃棄物として取り扱われ、京都府所管による処分となるが、市として携われる部分があるのか。また、廃棄に関する市民への周知や広報活動についてはどうかを問う。



2 予防医療の推進について

酷暑により、世代を問わずフレイル発症リスクが高まっているが、市の課題認識や対策・支援について、特定健診受診率の推移と今後の目標、低受診率の40代前半男性に対する具体的な啓発、未受診者への受診勧奨について、特定健診において要医療となった方が、経済的理由によって治療中断をすることのない支援の実施を問う。

9 眞下 弘明 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 舞鶴の民謡などの伝承について

舞鶴小唄、舞鶴風流音頭、舞鶴甚句を代表する民謡があるが、郷土文化の民謡を再認識し、文化的価値の市の認識について問うと同時に、学校教育での導入、若い世代への普及活動などで本市の民謡を生かす活用方法を問う。



2 公共施設の管理の在り方について

舞鶴文化公園階段破損の通報から8/25に起こった事故までの時系列についての確認と、本市の施設の点検、維持管理や市民から危険箇所の通報があった場合、受付から対応完了まで、どのような部署が関わり、どのような手順で危険度をどのように認識・評価処理されるルールになっているのかなど、再発防止策について問う。

3 北朝鮮人権週間について

この質問は3回目、五老スカイタワーのライトアップ、人権週間内でのパネル展示、加佐中学校の生徒が英語エッセイ中学生部門で最優秀賞を受賞など取り組んでもらっているが、今後の北朝鮮人権週間、拉致問題に対して本市の取組の考えについて問う。

10 水嶋 一明 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一括]

・ 京都舞鶴港におけるクルーズの取組について

本市は、平成25年から外航クルーズ船の寄港が本格的に始まり、令和元年には、クルーズ客船の客が最多の8万8千に達し賑わっていたが、新型コロナウイルス感染症の拡散等により、クルーズ客船の寄港がゼロとなった。

そこで、本市においては、国土交通省等関係機関・京都府等と協力して今後の京都舞鶴港の在り方等について研鑽をされるなど、さらなるクルーズ客船の誘致に奔走されてきた成果や課題克服の取組の成果、今後の見通し等について尋ねる。



11 福本 明日香 議員（超党・市民ファースト議員団） [一問一答]

1 本市の米への対策について

米の価格高騰や確保、また、水不足による作柄への影響について、市の取組を問う。さらに、新米流通後の見通しや、学校給食における米の安定確保と物価高騰の影響、そして、稲作の担い手不足や耕作放棄地への対策について、見解を問う。



2 戦後80年の平和への取組について

戦後80年を迎えるにあたり、舞鶴引揚記念館の取組や来館者状況について問う。特に、企画展やイベントの工夫、また、広報の在り方について改善を求め、その見解を問う。

3 不登校対策について

不登校児童・生徒の増加傾向に対する市の現状と対策について問う。文部科学省のCOCOLOプランを踏まえ、教育支援センターのオンライン支援、メタバース登校の導入、校内フリースクールの設置など、多様な学びの場の確保と、心のSOSに早期に気づくための取組について、市の見解を問う。

12 小谷 繁雄 議員（公明党議員団） [一問一答]

・ 地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備事業について

この事業の推進にあたり、専門職の配置や社協との連携、アウトリーチ支援の拡充、参加支援コーディネーターの配置による市民協働の仕組みづくりなど、重層的な支援と情報共有の工夫を通じて、地域共生社会の実現に向けた本市の展望を問う。



13 眞下 隆史 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

・ 舞鶴市学校規模適正化ビジョン（案）について

「舞鶴市学校規模適正化ビジョン（案）」について、舞鶴市全体に影響を与える大きな事業と認識しているが、これまで深い議論が少ないまま急激に推進されているように感じている。児童生徒の教育環境改善が一番の目的であるが、現状を十分に分析しているのか、市民理解が得られる取組となっているのか、過去の審議内容と今後の計画を問う。



14 南 正弘 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

1 大阪湾BCPについて

大阪港や神戸港等が地震や津波などで機能停止した場合、舞鶴港は緊急物資の代替え港として、また、輸送拠点として活用される。特に南海トラフ地震など広域災害を想定したBCPでは、舞鶴港が「プッシュ型緊急物資輸送」の受け入れ港としても位置づけられている。出入港船舶やトラックのコントロール等について問う。



2 防災庁の誘致について

防災庁の誘致を提案する。政府は2026年度中に「防災庁」の創設を目指しており、舞鶴市では、海上自衛隊基地や港湾インフラを活かした災害対応拠点としての提案ができると思う。市の見解を問う。

15 仲井 玲子 議員（超党・市民ファースト議員団） [2分割]

1 若者に選ばれるまちづくりについて

本市では、約83%の若者が帰ってこない現状の中、若者の定着、移住、定住施策は重要である。国の財政支援を受けられ、任期後の定住率が7割近くある「地域おこし協力隊」制度のさらなる活用について問う。他市から進学で舞鶴に来ている若者の本市への愛着の形成、舞鶴出身者への「ふるさと便り」などを提案し、市の見解を問う。



2 本市の水道管の整備状況について

水道管の老朽化による水道管破損事故や道路陥没事故などが全国で頻発している。本市では多くの水道管が老朽化を迎える中、現在の更新計画のペースで法定耐用年数40年を経過する管路を順次全て更新していけるのか、更新基準が安全であるのか、見直しの必要性の是非について問う。また、8月の水道管漏水事故の検証について問う。

16 田畑 篤子 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 舞鶴地域医療について

令和7年7月2日に第1回舞鶴市医療機能最適化検討会議が開催された。その中での「ポストアキュート」「サブアキュート」の分類意義についてと運営、人材確保対策について問う。また、令和7度当初予算で2700万円が組まれていた医療コンサルタントの業務内容とその成果についてと、令和6年9、10月の公的病院職職員アンケート結果の活用を問う。



2 舞鶴市こどもまんなが計画について

本市の18歳までのこどもを対象とした支援計画について問う。また「こども支援課」と「教育委員会」の連携や継続した支援について問う。

(1)【施策2】こどもと親を支える保健・医療・福祉の充実について

(2)【施策3】子育て家庭への支援の充実について

(3)【施策4】配慮を必要とするこどもや、家庭の支援の充実について

3 介護職員等による「喀痰吸引・経管栄養研修」について

介護保険法等一部改正法により、平成27年度以降は介護福祉士がその業務として喀痰吸引等の実施が可能となった。介護福祉士養成施設の養成課程においても、医療的ケア（喀痰吸引等）に関する教育を行うことが必要となった。本市では、その研修が実習のみを残して資格取得に至っていない介護福祉士が約100人以上存在している。その対策に市の協力を問う。

17 上野 修身 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

・ 本市の上下水道事業について

私たちが日々生活を営む上で、水道・下水道は、清潔な水の供給と生活排水の適切な処理を担い、衛生的な暮らしと共に、環境保全にも不可欠で、重要な社会インフラである。

しかし、人口減少による使用量収入の減少、老朽化による漏水・破損のリスクが高まり早急な更新が必要と考える。現状と課題、見通しについて問う。



18 山本 治兵衛 議員（新政クラブ議員団） [一問一答]

1 令和6年度財政について

令和6年度の決算は、10億9845万円の黒字決算となった。改めてその主な要因と、決算に対する市の認識をまずは問うことと、当初予算においては、給食費の無償化を実現するための財源として、ふるさと応援寄附金が充てられた。目標額は5億円とされ、事業の財源として割り当てられたが、その目標額は達成されたのかを問う。



2 庁内ガバナンスについて

近年、職員の不適切事案は10を超え、とてつもなく早いペースで発生しており、かつ、多い。直近では、市民への負担に直結する事案も発生している。この状況どのように認識しているのか。また、事案の報告には、再発防止策が合わせて示されているが、同じような理由で不適切事案が発生しているように思う。つまりは庁内のガバナンス崩壊しているのではないか。市の見解を問う。

3 西市民プラザの方向性について

西市民プラザの運営方針が決定され、公表された。議会でも多くの議論がなされたところであり、今回の方針決定について質問する。まずは決定に至るまでのプロセスはどのようにされたのか、また、運営方針が決定されてから市民への周知はどのように行われたのかを問う。

18 尾関 善之 議員（自民党鶴政クラブ議員団） [一問一答]

・ 西地区高潮対策について

- (1) 高潮の状況について、市の認識を問う。
- (2) 道路の嵩上げ等含め、様々な取組について問う。
- (3) 京都府(国道・府道)と本市(市道)との連携、また、優先路線等について問う。
- (4) 利用促進に向けての支援策と関係機関との連携について問う。
- (5) 静溪ポンプ場整備に関し、早期完成に向けた現在の進捗状況と高潮対策に効率的で有効な施設について問う。
- (6) 今後の高潮対策について問う。

